



さあ、答え合わせをしよう！

Vol.71 調べてみよう～墓①

※ココを見てね! ▶ 調べてみよう～生活文化「墓(はか)」

1. 日本列島(れっとう)で発見された、もっとも古い人骨がみつかったのは、次のうち、どこですか？

正解:③沖縄県(おきなわけん)

日本列島(れっとう)の土は、骨(ほね)を溶(と)かしやすいため、人骨(じんこつ)は残りにくいです。でも、沖縄県(おきなわけん)や鹿児島県(かごしまけん)の一部、南西諸島(なんせいしょとう)とよばれるエリアは石灰岩(せっかいがん)やサンゴ礁(しょう)の島なので、骨(ほね)が残ります。だから、日本列島(れっとう)で旧石器時代(きゅうせきじだい)の人骨(じんこつ)がみつかるのは限られた地域(ちいき)だけです。正解は、③沖縄県(おきなわけん)。ちなみに、北海道(ほっかいどう)では今から約3万数千年前のホモ・サピエンスの「足跡(あしあと)」がみつかっています。また、山口県(やまぐちけん)では、土井ヶ浜遺跡(どいがはまいせき)から、弥生時代(やよいじだい)の渡来人(とらいじん)の人骨(じんこつ)が約300体発見(はっけん)されています。

2. 縄文時代から、イヌを飼(か)う習慣(しゅうかん)があったことはわかっています。明治時代(めいじじだい)以降(いこう)の発掘調査で、イヌが埋葬されていたことがわかりました。さて、その遺跡はどこかな？

正解:②藤原観音堂貝塚(ふじわらかんのんどうかいづか) / 千葉県(ちばけん)

動物の中でも、犬は上下関係がはっきりしている生き物のようですが、現代(げんだい)では家族の一員として君臨(くんりん)する犬も珍(めずら)しくありませんね(;^\_^A さて、話は縄文時代(じょうもんじだい)にさかのぼります。イヌは、縄文人(じょうもんじん)が狩(か)りに行くときについて行き、獲物(えもの)の居場所(いばしょ)を教えたり、獲物(えもの)を追いまわしたり、ときには格闘(かくとう)したり、弓矢(ゆみや)でしとめた獲物(えもの)をとりに行ったりと、大活躍(だいかつやく)！ 縄文人(じょうもんじん)にとって、イヌは狩(か)りに欠(か)かせないパートナーだったのです。そんなイヌを手厚(てあつ)く埋葬(まいそう)した墓(はか)が見つかったのは、千葉県(ちばけん)の藤原観音堂貝塚(ふじわらかんのんどうかいづか)です。正解は②、写真もあるよ。

3. 現代も見られる風習として、死んだ人を葬(ほうむ)るときに、鏡や剣、アクセサリーなどをいっしょに入れました。こうした品物(しなもの)を何と呼びますか？

正解:②副葬品(ふくそうひん)

人を葬(ほうむ)る時に、遺体(いたい)と一緒に墓(はか)に埋(う)める品物のことを「副葬品(ふくそうひん)」といいます。生きていた時にその人が身につけていたアクセサリーや遺体(いたい)を守る力をもっていると信じられた品など、さまざまです。また、その人の生前(せいぜん)の社会的地位(しゃかいてきちい)や役割(やくわり)を示(しめ)す品などを入れることがあり、墓(はか)を調べると、その墓(はか)の主(あるじ)が力をもっていたかどうか分かる場合(ばあい)もあります。副葬品(ふくそうひん)を入れる風習(ふうしゅう)は今でも残っていて、亡(な)くなった人が好きだった食べ物や愛用(あいよう)していた物を棺(ひつぎ)に入れたりしますよね。WEBサイトに何度も出てくるので、答えはかんたんだったかな。正解は、②副葬品(ふくそうひん)です。